

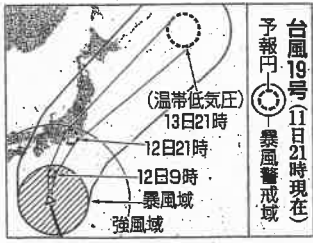
台風19号 きょう東日本上陸へ 中心部 本県通過の恐れ

大型で非常に強い台風19号は東海沖を北上し、12日の夕方から夜にかけて東海が関東に上陸する見通しだ。東日本の暴風や大雨は記録的なレベルに達すると予測される。気象庁は11日に臨時記者会見し、降水量は1200人を超える犠牲者を出した狩野川台風(1958年)に匹敵する恐れがあり、大雨・洪水警戒レベルで最高のレベル5に当たる特別警戒を出す可能性があるとして最大級の警戒を呼び掛けた。

(2、3、12面に関連記事)

狩野川台風匹敵か

台風19号が大型で非常に強いまま本州に上陸すれば、上陸時の最大風速に関する統計がある91年以降で初めて、土砂災害や浸水のほか、うねりを伴った高波や高潮、河川の増水や氾濫、冠水、大規模停電が発生する恐れがある。早めの避難や安全確保が必要だ。政府の関係閣僚会議で安倍晋三首相は「国民の安全確保に万全を見通し。担当者は「台風の



最大1時間降水量と最大風速 (01日午後5時現在)

地域	12日					13日			
	6~9時	9~12時	12~15時	15~18時	18~21時	0~6時	6~12時	12~18時	18~24時
北海道									
東北									
関東甲信	60	60	80	90	90				
伊豆諸島	60	80	90	90	90				
北陸									
東海	100	100	100	100	100				
近畿	50	70	70	50	40				
中国									
四国	40	30	30	20	20				
九州									
沖縄									

【気象庁の資料から作成。※は伊豆諸島除く】

狩野川台風 気象庁による
1958年9月26日午後9時すぎ、台風27号が伊豆半島南端をかすめ、27日に神奈川県、東京を通過し、三陸沖に進んだ。東海、関東地方は記

常に激しい雨が降り、1時間降水量は多い所で50mm以上の警戒レベルに達する見込み。夜からは80mmの猛烈な雨になるとみられる。12日午後6時までの24時間降水量は多い所で300mmと予想されている。

風も12日午前4時頃から強まり、夜からは台風の接近に伴い暴風となる見通し。予想される最大風速は20m/s、最大瞬間風速は35m/s。

12日は東海道新幹線が東京-名古屋間で終日運休。名古屋-新大阪間も上下計6本だけ運転する。山陽新幹線は12日午前中で新大阪-岡山間の運転を打ち切

首都圏のJR在来線は13日にかけて計画運休が実施される見通し。12日の空の便は羽田、成田両空港の発着便が全日空が全便、日航は早朝便を除く大半の欠航が決まっている。

12日午後6時までの24時間予想雨量は多い地域で東海800mm、関東甲信500mm、伊豆諸島350mm、近畿300mm、北陸、四国200mm、東北、中国150mm。

台風は11日午後9時現在、八丈島の南西約490kmを時速約25kmで北西に

中心部が本県上空を通過する恐れがある」として大雨や暴風などに厳重な警戒を呼び掛けている。

12日午前4時頃から断続的に非常に激しい雨が降り、1時間降水量は多い所で50mm以上の警戒レベルに達する見込み。夜からは80mmの猛烈な雨になるとみられる。12日午後6時までの24時間降水量は多い所で300mmと予想されている。

風も12日午前4時頃から強まり、夜からは台風の接近に伴い暴風となる見通し。予想される最大風速は20m/s、最大瞬間風速は35m/s。

12日は東海道新幹線が東京-名古屋間で終日運休。名古屋-新大阪間も上下計6本だけ運転する。山陽新幹線は12日午前中で新大阪-岡山間の運転を打ち切

首都圏のJR在来線は13日にかけて計画運休が実施される見通し。12日の空の便は羽田、成田両空港の発着便が全日空が全便、日航は早朝便を除く大半の欠航が決まっている。

12日午後6時までの24時間予想雨量は多い地域で東海800mm、関東甲信500mm、伊豆諸島350mm、近畿300mm、北陸、四国200mm、東北、中国150mm。

台風は11日午後9時現在、八丈島の南西約490kmを時速約25kmで北西に

中心部が本県上空を通過する恐れがある」として大雨や暴風などに厳重な警戒を呼び掛けている。

12日午前4時頃から断続的に非常に激しい雨が降り、1時間降水量は多い所で50mm以上の警戒レベルに達する見込み。夜からは80mmの猛烈な雨になるとみられる。12日午後6時までの24時間降水量は多い所で300mmと予想されている。

風も12日午前4時頃から強まり、夜からは台風の接近に伴い暴風となる見通し。予想される最大風速は20m/s、最大瞬間風速は35m/s。

12日は東海道新幹線が東京-名古屋間で終日運休。名古屋-新大阪間も上下計6本だけ運転する。山陽新幹線は12日午前中で新大阪-岡山間の運転を打ち切

首都圏のJR在来線は13日にかけて計画運休が実施される見通し。12日の空の便は羽田、成田両空港の発着便が全日空が全便、日航は早朝便を除く大半の欠航が決まっている。

12日午後6時までの24時間予想雨量は多い地域で東海800mm、関東甲信500mm、伊豆諸島350mm、近畿300mm、北陸、四国200mm、東北、中国150mm。

台風は11日午後9時現在、八丈島の南西約490kmを時速約25kmで北西に

中心部が本県上空を通過する恐れがある」として大雨や暴風などに厳重な警戒を呼び掛けている。

下野新聞

「最強」台風 官民備え

今夜にも県内最接近

避難所開設 停電を警戒

台風19号が迫る中、県内では11日も官民が備えを急いだ。市町は早めに自主避難所を開いたり、12日朝からの開設を決めたりした。東京電力は千葉県で大停電を招いた台風15号を踏まえ、県内で5000人規模の警戒態勢を敷く。商業施設は12日の臨時休業を決定、ホームセンターでは防災用品などを求める人が目立った。



台風19号に備え、自主避難所に物資を運び込む真岡市の職員。11日午後、真岡小

県内市町では11日に自主避難所を設ける動きがあった。宇都宮、栃木市や那須、壬生町など多くの市町が12日朝から正午ごろまでの避難所開設を決めた。

真岡市は11日、二宮ユニティセンターと真岡小体育館に自主避難所を設置した。風雨の影響が出ていない中での設置は、同市としては異例の早さという。午後から市職員が備蓄の缶詰パンや飲料水、毛布などを搬入した。鹿沼市も各地区市民センターなど15カ所に自主避難所を設けた。

矢板市は市職員約30人が土のう作りを進めた。同日までに、備蓄を含め計約3300個を用意した。同市危機対策班の斎藤正一班長は「市民の安全安心のため、万全の態勢で臨みたい」と話した。

大田原市は太陽光パネル

が飛散、浸水し感電の恐れがあるとして、パネルに近づかないよう注意を呼び掛けた。同市内には丘陵地などを中心に太陽光パネルの発電施設が多く、同市生活

商業施設、臨時休業も

台風19号の接近に伴い、東武宇都宮百貨店は11日、宇都宮店などで12日を臨時休業とすることを決めた。担当者は「従業員、お客さまの安全を考慮した」と説明する。佐野市の佐野プレミアム・アウトレット、那須塩原市の那須ガーデンアウトレットも12日は臨時休業に。福田屋百貨店は営業時間を短縮するという。

総合スーパーの「ベイシア」(前橋市)は12日、県内15店舗のうち、日光市今市と足利市借宿町の2店舗を臨時休業にする。その他の店舗は営業時間を短縮する予定。

環境課は「光があれば、発電状態になつていて。見掛けたら触らず、周囲にも注意を呼び掛けて」と訴えた。県は特別警報発表時などに置く災害対策本部の前段となる災害警戒本部を設置。会議には県や県警、陸上自衛隊の担当者が出席し、本部長の松村誠(県危機管理監)は「記録的な暴風雨になる恐れがある。各部で準備、対応をお願いしたい」と呼び掛けた。

一方、東京電力パワーグリッド栃木総支社によると、12日早朝から、県内3総支社の社員の約7割に当たる5000人規模で、送電設備の巡視や復旧作業の態勢を整える。台風15号の対応を踏まえ、警戒態勢を強化するという。

北関東で65店舗のカソリンスタンドを営む足利市の両毛丸善は「12日は店によっては在庫がなくなった段階で休業となるかもしれない」とした。宇都宮市西川田本町2丁目の「ホームセンターカンセキ西川田店」では11日、ブルーシートや土のう袋などを買い求める客の姿が目立った。同市西川田町、パート従業員渡辺洋子さん(53)は「念のため停電に備えようと思った」と懐中電灯などを購入していた。

下野新聞

生活、インフラ大打撃

台風19号

無残にえぐられた道路、水没した取水施設、濁流にのまれた観光やな。自然の猛威の前に、人々は肩を落とす。台風19号は、県内のいたる所で大きな爪痕を残した。

「数十年に一度」またも

小山・思川西部

続く浸水、頭抱える住民



浸水した店の片付けをする店主ら

【小山】台風19号の影響で市内では13日朝、思川西部の太行寺と中里、押切地区などで床上・床下浸水の被害が確認され、市が調査を始めた。2015年9月の関東・東北豪雨で被害を受けた地域とほぼ重なる。「数十年に一度」とされる豪雨が4年後に起きたことに地域住民は頭を抱えた。市西部の中里や押切地区では柚井木川の水があふれ、寒川小には一時約140人が避難した。周囲の道路が冠水したため、約40人が13日朝になっても自宅に帰れない状況が続いた。家族とともに体育館で一

夜を明かした押切、会社員戸井田清一さん(62)は「またか」という気持ち。数十年に一度のはずの災害がまた起きてしまった」とやるせない表情でため息を漏らした。

思川西部、太行寺の住宅地では浸水した住宅や事務所を片付ける人の姿が見られた。無職肥後尚武さん(79)宅は1階がくるぶしの上まで水につかった。前回の豪雨を教訓に自家用車は安全な場所に移動し、自宅の2階で過ごしたが「精神的に参る」と言葉少な。近くの居酒屋も床上浸水

し、エアコンや冷蔵庫、食器類が使えなくなった。経営する市村充さん(57)

は「前回の豪雨の後に買い替えたばかりだった。悔しいけど店はいよいよ」と目をつめた。(宗像信如、青木友里、橋本祐樹)

台風被害で相談窓口

【小山】市は13日、台風19号で被害に遭った市民対象の総合窓口を市役所別館1階の会議室に設置した。
 問同窓口0285・22・9336。

下野新聞

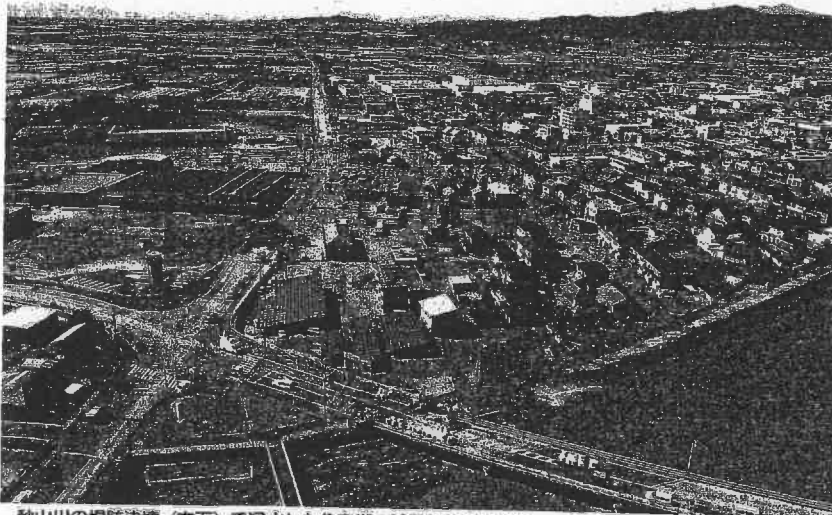


【小山】台風19号の影響で広範圏に冠水した太行寺で13日朝、大学生数人が次々とタイヤを運ぶ姿が見られた。写真。タイヤが流れたタイヤ

大学生が回収
 クシー会社の倉庫に保管されていたタイヤ約50本が水に流され、近くに住む白鷲大野球部員が回収を手伝ったという。

下野新聞

豪雨襲撃 4人死亡



秋山川の堤防決壊(右下)で浸水した住宅街=13日午後0時35分、佐野市寺中町、小型無人機から、杉浦崇仁撮影

台風19号で県内

決壊、河川氾濫相次ぐ

一時1万9000人超が避難

台風19号による記録的豪雨に伴い、県内は12日夜から13日にかけて佐野市の秋山川を各地の河川で堤防の決壊や氾濫が相次いだ。豪雨などに関係するとみられる事故で足利と栃木、鹿沼市で4人の死亡が確認された。けが人は栃木や佐野など5市に計11人。県内の避難者は同日朝の時点で約1万9千人に達し、午後2時の段階でも約2千人に上った。県内14市町に発表された大雨特別警報は同日未明に解除された。県の派遣要請を受けた自衛隊は、大規模に浸水した地域などで救出活動に当たった。

県警などによると、同日午前3時10分ごろ、足利市寺岡町の水田に落ちた乗用車から救助された男女3人のうち、同所、無職山本純子さん(85)の死亡が確認された。同4時半ごろには栃

ツクが落下。押しつぶされた軽乗用車の同所、会社員小倉勲さん(47)が死亡した。同6時半ごろには同市奈佐原町の黒川中洲で土砂に埋まったRVを鹿沼署員が発見。車内にいた同市茂呂、会社役員早乙女健一さん(70)が死亡した。

13日午後2時時点の県の集計によると、県管理の20河川の16カ所が決壊し、20カ所が氾濫。佐野市赤坂町の秋山川右岸の堤防は12日夜、約20分にわたり決壊し周辺一帯が浸水した。大田原市北大和久の鹿沼川左岸の堤防も13日午前3時55分ごろ、約200分にわたり決壊した。宇都宮市中心部の田川や栃木市の田沼川などは氾濫した。

大規模な洪水被害が各地で発生した。土砂災害も相次ぎ、共同通信の集計によると1県で33人が死亡、19人が行方不明となった。負傷者も多数に上った。孤立状態になった地域も多く、警察や消防のほか、災害派遣要請を受けた自衛隊が捜索や救助を行った。

国土交通省によると、長野市穂保では13日午前3時ごろ、千曲川の堤防が欠損しているのを監視カメラで確認。その後、約70分にわたり決壊し、大量の濁流が流れ出したとみられる。福祉施設など5カ所が高齢者ら計約360人が孤立し、JR東日本の車両センター1では北陸新幹線車両10編成が水に漬かった。



東日本縦断 各地に爪痕

東日本を縦断し、13日に19号による猛烈な雨の影響、河川の24カ所で堤防が決壊、浸水被害に陥った台風で、長野県の千曲川など21

県警などによると、同日午前3時10分ごろ、足利市寺岡町の水田に落ちた乗用車から救助された男女3人のうち、同所、無職山本純子さん(85)の死亡が確認された。同4時半ごろには栃

県は12日夜、自衛隊に災害派遣を要請、特別警報が出された14市町に災害救助法の適用を決めた。陸上自衛隊宇都宮駐屯地第2特科隊は浸水地域で13日午後2時時点で87人を救出した。県内で土砂災害は17カ所に20カ所発生。12日午後10時45分ごろ、栃木市岩舟町小野寺の山林で起きた土砂崩れで民家1棟が巻き込まれ、女性(61)が閉じ込められたが、13日午前3時20分に救出された。

下野新聞

県内12日 9地点観測最大降雨量 塩谷413ミリ、宇都宮325ミリ

台風19号の影響で県内は記録的な豪雨となり、12日の降雨量は県内全14観測地点のうち、塩谷413・5ミリなど9地点で観測史上最大となった。市内の河川の堤防が決壊したり、氾濫したりした佐野や鹿沼などでは、2015年9月の関東・東北豪雨時の降雨量を上回る雨を観測した。

佐野など 関東・東北豪雨上回る

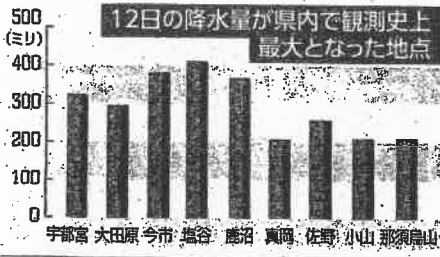
宇都宮地方気象台によると、本県に台風が接近した12日の降雨量が観測史上最大を観測したのは他に宇都宮325・5ミリ、大田原268・5ミリ、真岡209・5ミリ、十日市309・5ミリ、日光481・5ミリ、関東・東北豪雨の際に、日降水量が観測史上1位となっていた佐野は、今回の70ミリ、小山(213・5ミリ)や今市(383・5ミリ)でも、関東・東北豪雨時を上回った。

上回った。

一方、台風の影響による雨が県内で降り始めた11日午前0時から13日午前11時までの総雨量は奥日光512・5ミリ、土呂部424・5ミリ、塩谷423ミリなどとなり、10月の月平均値の2・5倍以上になった。

また台風の接近に伴い、12日夕方から13日未明にかけて、県内でやや強い風や強い雨が吹いた。宇都宮では12日午後11時10分ごろに、最大風速16・7メートルを記録。奥日光では13日午前0時55分ごろ、10月の観測史上最大となる最大瞬間風速34・1メートルを観測した。

県内は12日午後7時50分、宇都宮やさくら、鹿沼、佐野、塩谷、那須など14市町に大雨特別警報が発表され、13日午前2時20分に解除された。



台風19号の主な県内被害 ※13日午後2時、県危機管理課まとめ、一部下野新聞社調べ

人的被害	死者 4人(足利市、栃木市、鹿沼市) 負傷者 17人(鹿沼市、佐野市、矢板市など)
住宅被害	床上浸水 114棟 床下浸水 204棟
水道施設	機能停止・機能不全(12カ所)
病院	大平下病院(1階浸水および停電)
建物被害	県立高5校(床上浸水等) 特別支援学校1校(床上浸水等) 私立高4校(床上浸水等) 私立専修学校等11校(床上浸水等)
小中学校	公立小学校16校(浸水等) 公立中学校8校(冠水等)
避難者数(ピーク時)	25市町、369カ所、約1万9000人
県管理河川 堤防決壊	思川、荒井川(鹿沼市)、永野川、三杉川(栃木市)、黒川(壬生町)、中川(矢板市)、内川(さくら市)、蛇尾川、百村川(大田原市)、荒川(那須烏山市)、秋山川(佐野市)
土砂災害(ピーク時)	20カ所(大田原市、那珂川町、那須町等)
通行止め	一般道 国道11カ所、県道79カ所、市町道147カ所
鉄道	東北新幹線 午後4時から再開 在来線 午後5時から通常運転(宇都宮線)、始発から見合わせ(両毛線)、終日見合わせ(烏山線、日光線、水戸線) 真岡鉄道 終日運休 東武鉄道 終日見合わせ(佐野線)、一部区間を除いて終日見合わせ(日光線)、午後7時20分から再開(鬼怒川線)、午後10時から再開見込み(宇都宮線)
停電(ピーク時)	約2万800軒(14市町)

床上浸水151、床下140世帯

小山市が被害状況報告

通行止め、ほぼ解除

【小山】市は15日、災害対策本部会議と市議会議員説明会を相次いで開き、台風19号の被害状況を報告した。建物被害は思川西部の大行寺や柳井木川沿いの押切に集中しており、14日現在で床上浸水は151世帯、床下浸水は140世帯に上った。建物被害は調査が続いており、被災世帯数は増えるとみられる。

「被災者支援のために必要不可欠」として、県に対して同法適用の要請書を提出したことも明らかにした。浸水した住宅からは15日正午現在267件の消毒要請があり、131件実施した。災害ごみの仮置き場は、島田の旧文化の森に設置した。運搬手段のない被災者のため、市は市建設業協会に協力を要請している。交通インフラは思川の小さな宅構が流失して市道8号線

が通行止めになっていたのは、かは大なる損傷がなく、全通行止めが解除された。上下水道は思川沿いにある輪島浄水場が水没し送水を停止したが、他の浄水場の配水量を増やして対応した。学校施設では中小の体育館が床上浸水した。思川沿いにある思川緑地、石の上河川広場など4カ所の公園は広範囲に冠水して土砂が堆積したり運動施設が流失したりし復旧のめどは立っていない。(宗像信也)

【小山】市は15日、災害対策本部会議と市議会議員説明会を相次いで開き、台風19号の被害状況を報告した。建物被害は思川西部の大行寺や柳井木川沿いの押切に集中しており、14日現在で床上浸水は151世帯、床下浸水は140世帯に上った。建物被害は調査が続いており、被災世帯数は増えるとみられる。

避難所は最大で19カ所開設し1696人が避難したが、15日午前9時現在で寒川小1カ所の13世帯30人に減った。

議員説明会で大久保孝夫市長は、思川の中間橋下流など3カ所で一時的に川の水位が思川堤防を初めて越えたことに触れ、「一時は覚悟を決めたが、消防団が迅速に土のうを積み上げたこと

災害救助法適用 県に強く求める

【小山】市と那須烏山市、台風19号で河川の氾濫などの被害が発生したものの、災害救助法が適用され

ていない小山市と那須烏山市は15日、県に同法適用を求めるとの要請を行った。加藤賢一小山市副市長と、川俣純子那須烏山市長がそれぞれ県庁を訪れ、北村一郎副知事に被災状況を説明し、同法が適用されるよう強く求めた。

特別警報が発表された自治体は同法の適用を受けるが、両市には今回、大雨特別警報が出なかった。適用基準は他に、自治体内の住家被害数などがある。適用されると、応急仮設住宅の設置費用、住民への食料や学用品の提供費用などが国と県の全額負担となる。

「市内の降雨量は少なかつたが、被害は大きい。財政的に厳しく、復旧は市だけで対応できる規模ではない」と訴えた。

下野新聞

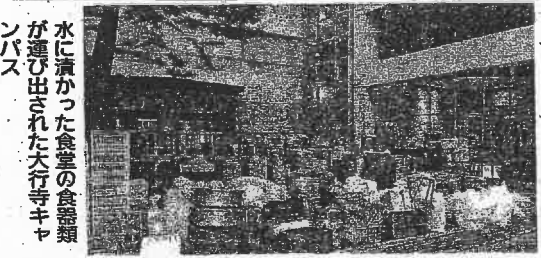
下野新聞

白鷗大の代行寺キャンパス

床上浸水、19日まで休講

【小山】白鷗大は台風19号の影響で教育学部が入る代行寺キャンパスで建物の多くが床上浸水の被害を受けたため、同キャンパスでの授業を15、19日、休講することを決めた。JR小山駅東口の本キャンパスは通常通り授業を行う。

同大によると、思川支流の豊穂川から水があふれた影響で、代行寺キャンパスの12棟のうち9棟で、最高約1.5mまで床上浸水した。同キャンパス近くの「はくおう幼稚園」も1・3歳児ほど床上浸水し、休園した。24日からの再開を目指す。預かり保育は10日を除く16、23日、本キャンパスで実施する。同キャンパスは2015年の関東・東北豪雨でも浸水被害を受けた。(青木友里)



水に漬かった食堂の食器類が運び出された代行寺キャンパス

下野新聞

浸水21市町8000棟超か

21人けが、195人避難続く

下野新聞

台風19号による県内の浸水被害は少なくとも計21市町で計約80290棟に達することが、15日までの下野新聞社の取材で分かった。調査は継続中だが、2015年9月の関東・東北豪雨の5106棟を上回る被害規模となりそう。県の15日正午までのまとめによると、けが人が新たに4人確認され、21人となったほか、7市で195人が避難を続けている。被害は広域に及んでおり、全容解明には時間がかかりそう。

下野新聞社の全25市町への取材によると、15日午後5時時点で床上浸水が18市町で約3180棟、床下浸水が19市町で約5110棟に上った。永野川の堤防が決壊した栃木市は床上約1600棟、床下約3840棟と見込んでおり、被害が突出している。

15日午後8時時点で佐野、鹿沼の両市の避難指示は継続中。ピーク時で約2万人いた避難者は減りつつあるものの、15日午前の段階で栃木や佐野、小山など7市14カ所の避難所に計195人が身を寄せている。交通網は混乱が続いており、28カ所の県道と多数の市町道が通行止めとなっている。永野川の線路上台部が流出したJR両毛線、線路碎石の流出などがあつた東武日光線、東武佐野線は運転を見合わせている。土砂崩れは足利や那須など14市町で54カ所が確認された。ピーク時で約2万800軒に上った停電は解消されたが、那須烏山や栃木、鹿沼、佐野、那須の5市町で断水が続く。

15日午後8時時点で栃木、佐野、鹿沼、小山、大田原、那須塩原、さくら、那須烏山、下野、市貝、壬生、野木の12市町への洪水警報は発表されたまま。

下野新聞

国土交通省利根川上流河川事務所は14日、台風19号の影響で利根川、渡良瀬川の四つの調節池の貯留量が過去最大の約2億5千万立方メートルに達したと発表した。四つの調節池は渡良瀬遊水地、河川の氾濫を防ぐ。

貯留量過去最大に

留量が過去最大の約2億5千万立方メートルに達したと発表した。四つの調節池は渡良瀬遊水地、河川の氾濫を防ぐ。

渡良瀬など4調節池

本県など4県にまたがる渡良瀬遊水地では13日午前9時ごろをピークに、最大貯留量の95%に当たる約1億6千万立方メートルを貯留。他の三つの調節池では同日午前14日午前にかけて、最大貯留量の約9割に当たる計9千万立方メートルを貯留した。これまでの四つの調節池での最大貯留量は2015年9月の関東・東北豪雨で約1億2千万立方メートルだった。(田中えり)

県災害対策本部のまとめによると、足利市で避難所に向かう乗用車が水没し、女性が死亡した事故で、15

被災者宅からの派遣要請に対応

市社協がセンター

【小山】市社会福祉協議会は15日、台風19号被災に

対応するため災害ボランテニアセンターを設置した。同日正午までに被災者から27件の派遣要請があり、53人のボランテニア希望者を協定受け付けをする。電話での受け付けはしないため「最新の情報を市社協のホ

まったという。

ボランテニア希望者は午前9～10時まで直接市社協で受け付けをする。電話での受け付けはしないため「最新の情報を市社協のホ

ホームページで確認してから来てほしい」としている。

被災者からのボランテニア派遣要請は市社協地域福祉係へ。問い合わせ02865・22・9501。

下野新聞

予備費7億円支出決定

堤防決壊7河川に調査委

台風19号被害で政府

政府は16日の持ち回り閣議で、台風19号被害への対応に関し、2019年度予算の予備費約7億1千万円の支出を決定した。被災自治体の要請を待たずに水や食料などの物資を送る「フッシュ型」支援の強化に充て、被災各地の避難所に水や食料、段ボールベッド、仮設トイレなどを送る。

国土交通省は、堤防が決壊した河川について、原因究明や復旧工法を調査する調査委員会を設けて検討し、数カ月で結論を出すと明らかにした。土木や河川の専門家らで構成し、安倍首相は16日の参



予備費 予算編成時に予測が難しい緊急事態に備え、使い道を決めずに計上した経費。災害の判断が必要。2019年度は、前年度よりも1500億円増となる。19年度は台風15号に関連への支援に約13億円支出など、これまでに200億円超を使っている。

院予算委員会でも「被災自治体が財政上安心して、全方で応急対応、復旧に当たれるよう、その都度必要な手当てを行う」と強調した。激甚災害に指定する方向で調査を進める方針を重ねて示し、普通交付税の繰り上げ交付を迅速に実施する考えも示した。

予備費は19年度予算で5千億円計上しており、被災者支援や復旧対策に関しては、必要に応じて追加支出する構えだ。補正予算の編成も検討している。復興に

関わる追加費用を中心に盛り込む見通しで、崩れた道路や堤防といったインフラの補修などが含まれる可能性がある。国土省が調査委を設置する7河川は吉田川、阿武隈川、千曲川、久慈川、越後川、都幾川、那珂川。各地の地方整備局が事務局を担う。既に一部の河川では委

ゆうちょ口座で義援金受け付け

県、来年1月まで

県は16日、台風19号に伴う災害義援金の受け入れ口座として、ゆうちょ銀行を追加した。口座は「ゆうちょ銀行(001800-4-487570)」。2020年1月末まで受け付ける。

那須烏山市にも災害救助法適用

県内は11市4町に
県は16日、台風19号の被害を受けた那須烏山市への災害救助法の適用を決定し

下野新聞

た。床上、床下浸水の住宅被害で適用要件を満たした。県内では同市を含む11市4町が適用を受ける。一方、同日、下野市、上三川町、壬生町が県に対し、同法適用を求める要請書を提出した。県側は要請を踏まえて国と協議する方針。

JR両毛線栃木—小山間 運転再開「安心した」



栃木—小山駅間で運転を再開したJR両毛線の利用客。簡易改札機(左)を設置して対応した=16日夕、JR栃木駅

台風19号の影響に伴い一部区間で運転を覚合わせられているJR両毛線は16日、栃木—小山間で運転を再開した。本数を減らしての再開となったが、利用客は「電車が動いてよかった」と胸をなで下ろした。

JR東日本高崎支社によると、台風19号の豪雨の影響で同線栃木駅が浸水し券売機などが故障した。自動改札機も使用できなくなっ

ため、16日の再開を前に簡易の改札機を設置するなどして対応した。この日の夕方、同駅では沿線の学校に通う学生らが次々と改札を通り抜け、家路を急いでいた。

小山市荒井、栃木女子高1年生野明里さん(16)は「電車が動かないと通学に困るので、安心した」。同市間々田、栃木農業高2年生宝戸詩さん(16)は「本数が減って待ち時間が長くなってしまったけど、待つしかない」と受け止めていた。

一方、同線で不通となっている足利—栃木駅間のう

ち、足利—岩舟駅間は20日に再開する見込み。鉄道橋が倒壊する被害が出た岩舟—栃木駅間は、決壊した永野川の堤防工事終了から1カ月程度での再開を目指している。(大貫菜伊子)

下野新聞

地域の力合わせ

小山の押切 中里地区



庭先にたまった稲わらなどを搬出するボランティアの住民たち

【小山】台風19号の影響で約30戸が床上浸水などの被害に遭った押切、中里で地域住民が16日、被災者宅庭先などの清掃ボランティアを実施した。

寒川地区防犯会などの呼び掛けに応じ、想定以上の65人が参加した。当初は2日かけて、道路や被災者宅の庭先にたまった稲わらビニールなどを取り除く予定だったが、作業は16日午前中でほぼ終了した。屋内の作業は市社会福祉協議会に登

録したボランティアが行った。同所で和牛肥育を営み、自宅と牛舎が床上浸水した男性(48)は「ボランティアには本当に感謝している」と話す。一方で、4年前の関東・東北豪雨でも被災し、自宅や牛舎を改修したばかり。「この短い期間で同じような被害に遭つのはたまらない。行政には対応策を強化してもらいたい」とした。

被害が特に集中した押切は永野川と巴波川の合流点に近く、そのすぐ上流で栃井木川が永野川に合流する。合流点には排水機場があるが排水能力が追いつかず、栃井木川の水があふれて氾濫につながった。

下野新聞

「お互いさま」が心強い
ボランティア
復旧向け活躍

SNSでSOS
学生400人超集結
キャンパス清掃
小山・浸水の白鷗大



泥が付いた椅子を拭く学生

【小山】台風19号で浸水し休講中の白鷗大・大行寺キャンパスで、会員制交流サイト(SNS)の呼び掛けに応じて学生が集まり、校舎の清掃や片付けに取り組んでいる。16日までの4日間で延べ約440人が参加した。

加。「自分たちのキャンパスを自分たちの手で復旧させよう」と一致団結した。豪雨が襲った12日夜、同キャンパスの校舎上階に近所の学生や教職員約100人が避難し一夜を明かし

た。浸水した校舎の写真がSNSに投稿された。キャンパスは4年前の関東・東北豪雨でも浸水した。「自分が在学中にまた起きるとは」。栃木市吹上の自宅で写真を見た教育学部4年大嶋夏帆さん(22)は「何かしなければ」と、その日の夜に無料通信アプリLINE(ライン)で学

生ボランティアを募集。翌13日、130人もの学生が集まった。「みんな同じことを思っていたのだと思う」と大嶋さん。ラインで募った登録者は15日までに400人を超えた。16日は泥が付いた椅子の拭き掃除や、こみや草木が散乱した駐車場の清掃を行った。学生は「お世話になっているキャンパスなので」「一日も早く授業を再開したい」と作業に取り組んだ。授業は21日以降の再開を目指す。(青木友里)

台風19号の主な県内被害 ※県災害対策本部まとめ(16日午後3時現在)

人的被害	死者	4人(足利市、栃木市、鹿沼市)
	負傷者	22人(鹿沼市、足利市、佐野市、栃木市、矢板市など)
住宅被害	床上浸水	1万1704棟
	床下浸水	6378棟
	損壊	〈全壊〉1棟〈一部損壊〉17棟
避難者	避難所7市13カ所、195人(栃木市、佐野市、小山市、足利市など)	
土砂崩れ	14市町54カ所(足利市、大田原市、佐野市、那須町、那珂川町など)	
河川	決壊	13河川、26カ所
	氾濫	〈発生〉荒川、蛇尾川、永野川、秋山川 〈危険〉思川、黒川
道路通行止め	県道15カ所、市町道多数	
鉄道	JR	両毛線足利～栃木駅間終日運転見合わせ
	東武鉄道	〈終日運転見合わせ〉佐野線、日光線栗橋～栃木・新鹿沼～下今市 〈一部運休〉日光線特急、伊勢崎線特急
断水	4市町(栃木市、鹿沼市、那須烏山市、那須町)	
休校	小中学校	〈鹿沼市〉清州第一小、粕尾小、加蘇中(栃木市) 大平西小
	県立校	栃木商業高、栃木工業高、学悠館高、栃木特別支援学校
	私立中・高校	青藍泰斗高、白鷗大足利高、国学院大栃木高、佐野日大高、佐野日大中等教育学校、国学院大栃木中

下野新聞

県まとめ

浸水22市町1万8000棟超

195人避難、3市町で断水

台風19号の県災害対策本部は16日、午後3時時点の被害状況を発表した。住家の浸水被害の調査が進み、22市町で計1万8082棟(概数含む)に達したことが判明。けが人は重症者が1人増えるなどして22人となった。避難者数は7市で195人の上っている。3市町で断水しており、交通網も混乱が続いている。

(4面に主な県内被害)

住家の浸水被害は芳賀、野木、高根沢の3町を除く22市町に及んだ。床上浸水は19市町1万1704棟、床下浸水が21市町6378棟だった。永野川が決壊した栃木市は床上9400棟、床下4400棟に拡大。同市によると、工場や店舗などの非住家の被害も4200棟に上る。同市と、秋山川が決壊した佐野市は概数で、現在も被害を精査している。

けが人は新たに那須烏山市で確認され、22人となった。大田原市で作業中に屋根から転落した男性38人が重症だったことも判明した。佐野市と鹿沼市の避難指示は継続中で、7市13カ所の避難所に計195人が身を寄せている。うち栃木市の避難者は96人以上

16日午後1時時点で那須烏山、鹿沼、那須の3市町1238戸で断水している。特に那須烏山市は800戸が断水中だ。

鉄道はJR両毛線や東武日光線などで運転見合わせが続く。道路は県道が15カ所、市町道は多数で通行止めとなっている。県管理河川は決壊が13河川26カ所に及んでいたことが確認された。特に永野川は栃木市内で6カ所に上った。

栃木や佐野など12市町に発表されていた洪水警報は同日夕方に解除された。

同日夕方に解除された。

12都県77人犠牲
半数超の47人
水害で死亡か
台風19号で犠牲となった12都県の77人(16日午後時点のうち、半数超の47人)



台風19号の行方不明者の捜索が続く宮城県丸森町の土砂崩れ現場。警察官が慎重にスコップで土砂を掘り起こしていた。16日午後0時13分

は浸水や洪水といった水害で死亡したとみられることが16日、分かった。土砂災害による死者も11人以上に上る。広範囲の暴風雨が、地形などにより複合的な被害をもたらしたことが浮き彫りになった。死亡状況が依然不明の犠牲者もあり、今後の防災対策のために詳細な検証が不可欠だ。

12都県の災害対策本部などが発表した内容や、犠牲者の自宅や発見現場での取材を通じて分析、現段階で可能性が高いとみられる死亡原因を「水害」「土砂災害」「その他・不明」に分類した。

下野新聞

排水ポンプ一部稼働せず

小山の燃料切れで1時間 杉井木川の

小山市押切の杉井木川排水機場で台風19号が本県を通過した12日夜から13日にかけて、排水ポンプの一部が発電機の燃料切れのため約1時間稼働できず、燃料の備蓄もなかったことが17日、施設を管理する県栃木土木事務所への取材で分かった。

同排水機場は永野川と支流の杉井木川の合流点にある。永野川の水位が上昇すると杉井木川に逆流するため水門を閉じ、ポンプで杉井木川の水を永野川に排水する。排水能力は毎秒7立方メートル。毎秒6立方メートルの排水

能力がある本体4機のほかに、毎秒1立方メートルのポンプ16台が2017年に新設された。燃料不足で正常に稼働できなかったのはこのうちの2台。本体は正常に稼働していたという。

排水機場には当時燃料の備蓄がなく、周囲が冠水した中を委託業者が胸まで漬かりながらポリタンクで燃料を搬入した。途中からは消防のゴムボートで運び込んだという。周辺では約30戸が浸水被害に遭った。

同事務所の担当者は「発電機の燃料は満タンにしていたが、台風が来ると分かっていたのに備蓄していなかったのは反省点と認めた。その上で「民間から借り上げた8台のポンプも稼働させていたため、全体として影響は小さかったと考えている」と話している。

15年の関東・東北豪雨で同排水機場は建物1階のポンプ室などが水没し、本体4機の排水が停止した。この地域では当時69戸が床上、9戸が床下浸水被害に遭った。これを受け県は施設の耐水化を進め、今回は本体が正常に稼働した。一方、排水能力強化のため新たに設置した排水ポンプ16台は、燃料不足でその能力がフルに発揮させられなかった格好だ。

(宗像信如)

下野新聞

災害救助法を 小山市にも適用

県は17日、台風19号の被害を受けた小山市への災害救助法の適用を決定した。同市では住宅浸水被害などが多く、同法の適用を求め県に要望していた。県内では計12市4町が適用を受けるところになる。

下野新聞

県まとめ

避難者7市208人

足利、鹿沼で新たに勧告

台風19号の県災害対策本部は17日、午後2時現在の被害状況を発表した。住宅の浸水被害は22市町で計1万8411棟(概算含む)、52棟で、栃木市が最多の7千棟、次いで佐野市が1



台風で崩れた住宅団地の斜面。ブルーシートなどで補強され、復旧作業が進む17日午後、鹿沼市旭が丘

461棟、宇都宮市が51棟、床上浸水は21市町の8859棟で、栃木市が6800棟に上り、佐野市1209棟、宇都宮市2300棟など。現在も調査中でさらに拡大するとみられる。佐野市で避難指示が継続しており、7市14カ所の避難所に208人が身を寄せている。

また足利市と鹿沼市は同日、新たに計6世帯に避難勧告を出した。足利市は助戸大橋町の4世帯7人、鹿沼市は旭が丘の2世帯3人。いずれも近くで崩落した斜面が天候次第ではさらさら崩れる恐れがあるため。

台風19号の主な県内被害

※県災害対策本部まとめ(17日午後2時現在)、休校は下野新聞社調べ

人的被害	死者 4人(足利市、栃木市、鹿沼市)
	負傷者 22人(鹿沼市、足利市、佐野市、栃木市、矢板市など)
住宅被害	床上浸水 9552棟
	床下浸水 8859棟
	損壊 (全壊)1棟 (一部損壊)18棟
避難者	避難所7市14カ所、208人(栃木市、佐野市、鹿沼市、那須烏山市など)
土砂崩れ	13市町64カ所(足利市、大田原市、栃木市、那須町、那珂川町など。確認中の茂木町は除く)
道路通行止め	県道14カ所、市町道多数
鉄道	JR 両毛線足利～栃木駅間終日運転見合わせ
	(終日運転見合わせ)佐野線、日光線栗橋～栃木・新鹿沼～下今市
	(一部運休)日光線特急、伊勢崎線特急
断水	3市町(鹿沼市、那須烏山市、那須町)
休校	小中学校 (鹿沼市)清洲第一小、粕尾小、加藤中(栃木市)大平西小
	県立校 栃木商業高、栃木工業高、学悠館高、栃木特別支援学校
	私立中・高校 青藍泰斗高、白鷺大足利高、国学院大栃木高、佐野日大高、佐野日大中等教育学校、国学院大栃木中

企業や酒蔵など 浸水被害100件

一方、断水は鹿沼市、那須烏山市、那須町の各1地区で続いている。県道14カ所、市町道多数が通行止め。鉄道はJR両毛線、東武鉄道佐野線、日光線などで運転見合わせが続いている。

企業や酒蔵など 浸水被害100件

県は17日までに、台風19号に関する県内企業などの被害状況をまとめた。16日時点で浸水被害180件、建物損壊11件だった。

県内にある酒蔵も浸水の被害を受けた。16日時点で、いくつかの酒蔵は醸造が停止中という。建物に関しては、工場などの壁の一部が破損した。浸水被害、建物損壊のほか、日光園の畑が崩壊したという。

県災害対策本部では現在、常時開設中の中小企業向け相談窓口で、台風に関連した被害の相談を受け付けている。

被災地で捜索続く

台風19号の被災地では、17日も捜索が続いた。共同通信の集計では、死者は12都県の77人で、行方不明者は11人とみられる。低気圧や前線の影響で、東北や東日本では18日から19日にかけて大雨になる恐れがあり、気象庁は浸水などの被害が大きかった地域に警戒

下野新聞

死者79人 60歳以上7割超

首相、激甚指定を表明

東日本に大規模な洪水や土砂災害を引き起こした台風19号の影響で18日、新たに2人の遺体が福島県で見つかったことが分かり、死者は12都県で79人となった。共同通信の集計では、年代が判明した死者66人の

うち7割超の49人が60歳以上だった。行方不明者は10人。依然9万5千戸以上で断水、3900人以上が避難を続けており、生活再建の道のりは遠い。

安倍晋三首相は18日の非常災害対策本部会議で、台風19号に伴う農業や公共土木施設、中小企業被害を激甚災害に指定する方針を表明した。地域は限定しない。台風上陸から1週間となる19日は被災地で大雨が予想され、各自治体は警戒を呼び掛けた。共同通信の18日までの集

計によると、死者は12都県で79人。男女別は男性53人、女性23人、性別不明3人。船の沈没で死亡した7人と年代が不明の6人を除いた66人に關し、年齢や年代が各災害対策本部の発表や取材で分かった。60代と70代がいずれも16人で、80代11人、90代4人、100歳以上が2人だった。

死者79人の半数超の49人は、浸水や洪水といった水害で死亡したとみられる。土砂災害による死者は11人。行方不明の10人は、宮城3人、福島1人、茨城1人、神奈川3人、長野1人、静岡1人。

18日は各地で天候が悪化し、被害が深刻だった福島県いわき市は大雨に備え、多くの死者が出た地区を含む一部地域に避難勧告を發表。本宮市も全域に避難準備・高齢者等避難開始を發表した。

関係省庁によると、18日午後の時点で、10都県の3900人以上が避難。6都県の600人以上も道路の崩落などで孤立状態にある。

台風19号による県管理河川の被害状況

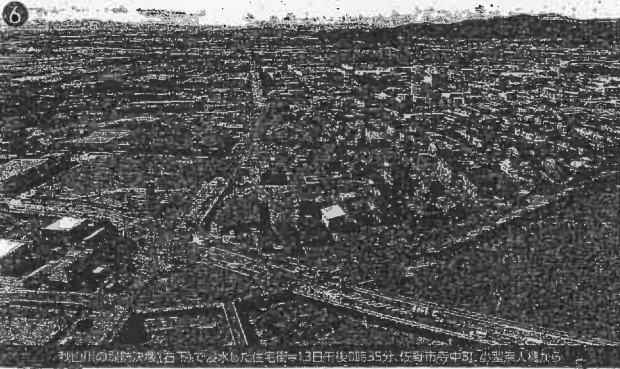
(16日午後3時時点の県東土整備部まごめによる)

堤防決壊 13河川26カ所

越水(堤防がある場所から水があふれる) 9河川31カ所
 いっ水(堤防がない場所から水があふれる)



(調査中のため被害箇所数や場所は変更となる場合があります)



秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から



3 秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から



2 秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から

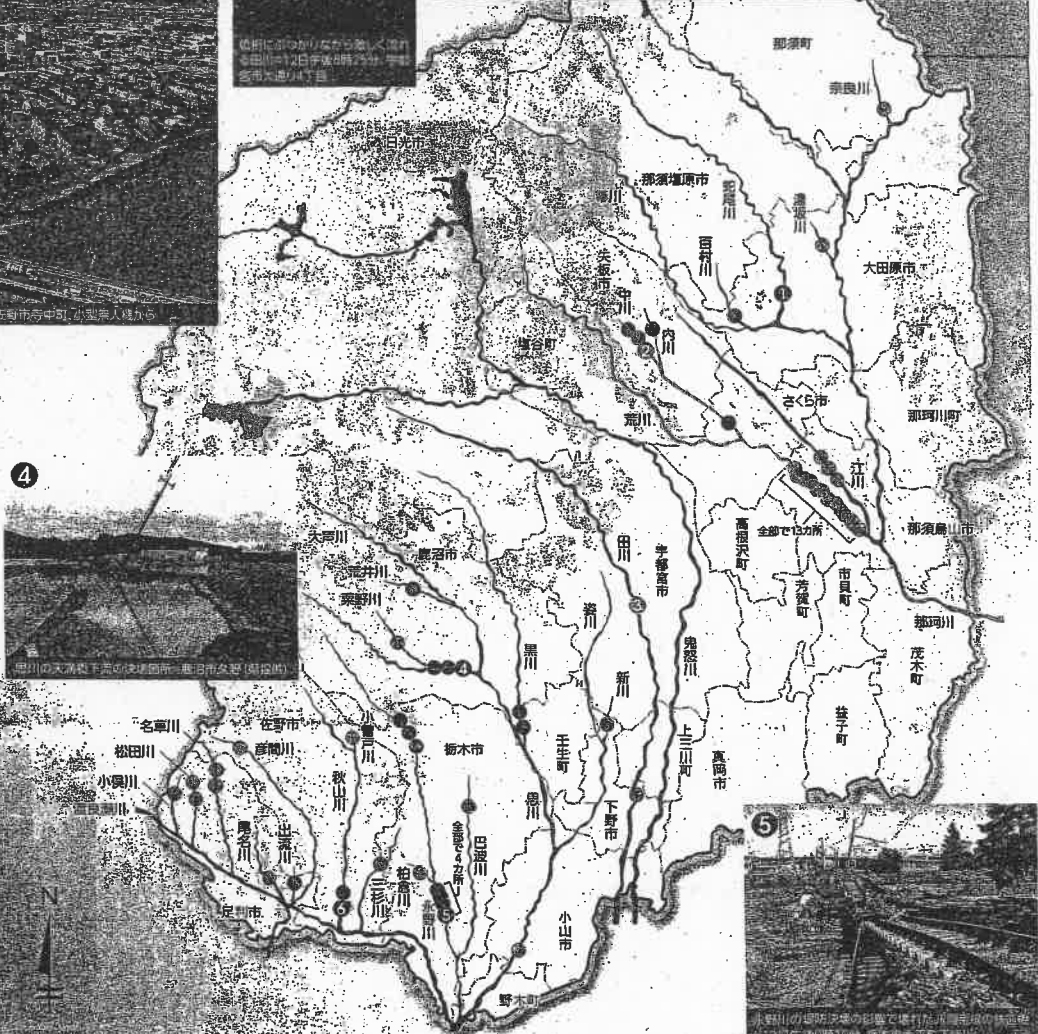


1 秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から

県が管理する被災河川のうち緊急工事を行う河川

河川名	被災箇所	被災区分	周辺の土地
1 田川	宇都宮市大通り4丁目	いっ水	市街地
2 秋山川	佐野市大橋町 大橋上流	越水	宅地
3 名栗川	足利市名栗中町 高橋上	越水	田一部宅地
4 足利市名栗上町	三ノ輪橋	いっ水	山一部宅地
5 小栗川	足利市小栗町 磐石橋下	いっ水	山一部宅地
6 根田川	足利市根田町 川田大橋下	いっ水	宅地
7 根田川	足利市根田町 中橋下	いっ水	宅地
8 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	宅地
9 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	宅地
10 根田川	足利市久野 天満橋上	越水	公園
11 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
12 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
13 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
14 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
15 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
16 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
17 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
18 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
19 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
20 根田川	足利市久野 天満橋下	越水	田一部宅地
21 田川	下野市成田	越水	田
22 新川	下野市古山 早稲田上	越水	田
23 柏島川	栃木市柏島 関村橋下	越水	田畑
24 三杉川	栃木市三杉町 磯の白濁下	越水	田一部宅地
25 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
26 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
27 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
28 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
29 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
30 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
31 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
32 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
33 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
34 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
35 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
36 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
37 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地
38 三杉川	下野市上田 下田橋上	越水	田一部宅地

※欄外16日発表した速報より作成。1-7は既に仮設工事完了。8-14は16日18時以内の完了を想定している。



4 秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から



5 秋川川の堤防決壊(右)で浸した住宅(左)=13日午後0時35分、佐野市赤中町、(左)実業人様から

下野新聞

災害ごみ 再開向け運搬本格化

【佐野】災害ごみが許容量に達したため16日に閉鎖された赤見運動公園プール駐車場の仮置き場(赤見町)で、再開に向けたごみ運搬作業が本格化した。

19日には両毛6市の災害時の相互応援協定に基づき、群馬県館林市職員約30人とごみ収集業者が現地入り。町谷町のみかもクリーンセンターに可燃ごみを運んだ。ただ量が膨大なため、佐野市の担当者は「いつ再

開できるかは見通しが立たない」としている。同駐車場の災害ごみ仮置き場は14日に開設、16日までの3日間でトラックや乗

用車など計2410台分の家具や家電、量などが運ばれた。現在は中町の中運動公園陸上競技場と栄町の栄公園野球場で災害ごみを受け入れている。

館林市の応援部隊は19日午前、仮置き場に到着。ご

みを分別した後、同市のごみ収集車5台に次々と詰め込み、クリーンセンターに向かった。担当者は「部局を乗り越えチームを編成した。今後も休日を利用して、一日も早い復旧に向け協力したい」と話した。

佐野市によると、災害ごみ仮置き場の設置は11月15日までの予定だが、「ごみの量などに応じて柔軟に対応したい」としている。また市は各町会が公園などに収集、保管している災害ごみを、21日から業者に委託し回収する。(柴由正人)



閉鎖された仮置き場の災害ごみを収集車に入れる館林職員

下野新聞

佐野 館林市からも応援

国管理河川

堤防計画 3割未達成

台風19号決壊地点も

河川整備計画に基づき水害対策を進めている国管理の河川で、堤防が必要な区間計約1万3000*のうち、大きさが計画水準に達していなかったり、堤防自体が設置されていなかったりする区間が3月末時点で約3割に上ることが20日、国

堤防が必要な区間	計約1万3000*	
堤防の幅や高さが水準に達していない	計約3500*	約26%
堤防がない	計約750*	5.6%

※国土交通省の集計による

土交通省への取材で分かった。台風19号で決壊や浸水した場所も含まれている。整備計画は途中段階だが、今後も記録的な大雨が降る可能性は高く、専門家は「対策は急務」と指摘している。

国土交通省は河川整備基本方針に基づき計画で、全国109水系について「200年に1度の水害に耐えられるか」などの目安で堤防の必要性や規模を決め、2030年を目標に整備を進めている。

同様の区間の割合が高いのは、久慈川水系(約65%)のほか、近畿地方整備局管内の円山川水系(約78%)、北陸地方整備局管内の梯川水系(約55%)、中国地方

整備局管内の高梁川水系(約54%)など。堤防がない区間も計約750*(5.6%)あった。台風19号で氾濫した多摩川は、無堤防の場所から水があふれ、東京都世田谷区で住宅が浸水した。同様の区間は那珂川水系で42%に上るほか、近畿地方整備局管内の由良川水系で約39%、四国地方整備局管内の物部川水系で約34%だった。

一方、福島県須賀川市にある阿武隈川の堤防は、計画通り整備されたものだったが台風19号で決壊した。国土交通省によると、用地取得が進んでいないケースや、流域全体のバランスを取る必要があるケースでは、整備が進んでいないという。担当者は「今回の水害も検証するが、堤防だけでは被害は防げず、川底の掘削など幅広い対策が必要だ」としている。

新潟大の大熊孝名誉教授(河川工学)は「一治水の王道は堤防だ。整備途上で仕方がない面もあるが、決壊した以上は強化がおろそかだったことになる。高さが足りない場所でも決壊するところが多く、早急に整備を進めるべきだ」と話している。

決壊堤防を緊急復旧

7河川の12カ所前倒し

国土交通省は20日、台風19号の影響で堤防が決壊した国管理7河川の12カ所で、同日までに緊急復旧が完了したと明らかにした。コンクリートブロックを投入し、被災前と同じ高さまで土を盛った。当初は21日完了の予定だったが、作業を急ぎ、前倒しした。

台風死者12都県80人に

住宅被害5万6千棟超

国土交通省の3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

国土交通省は3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

国土交通省は3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

国土交通省は3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

国土交通省は3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

国土交通省は3月末の集計では、堤防の幅や高さが計画水準に達していない区間が計約3500*(約26%)あった。今回の台風19号で堤防が決壊した久慈川の3カ所(茨城県常陸大宮市と、那珂川の3カ所(同市と同県那珂市)が該当し

甚大な被害をもたらした台風19号の影響で20日、新たに1人の遺体が宮城県丸森町の住宅で見つかり、共通通信の集計で死者は12都県80人となった。不明者は10人とみられる。総務省消防庁は、住宅被害が同日時点で5万6753棟に達したと発表。昨年の西日本豪

雨の約5万1千棟を上回る規模となった。雨が上がった被災地では警察や消防、自衛隊などが行方不明者の捜索を続け、住民らは自宅の片付けなどに追われた。ポランテイアによる支援も宮城、福島両県で本格化。泥の付いた家財道具を運び出し、炊

き出しもあった。総務省消防庁によると、住宅被害の内訳は全半壊が14都県986棟、一部損壊が28都道府県2682棟、床上浸水が16都県2万9982棟、床下浸水が21都県2万3103棟。内閣府によると、20日現在、11都県の4077人が

国土交通省によると、土砂災害は20都県で計432件が確認され、堤防の決壊は7県の11河川135カ所に上る。宮城県警は20日、丸森町の中野悦子さん(87)の遺体が見つかったと発表。14日と16日に同町で見つかった2人の遺体の身元を小野新一さん(67)、志賀正英さん(77)と確認した。

また同省は、護岸崩壊があった長野県内の千曲川と夜間瀬川の2河川5カ所について、管理者の県に代わって復旧工事を実施すると発表した。河川法に基づく代行制度で、台風19号の被災地では茨城県管理の河川堤防に続き、2例目となる。

浸水続き移転望む声も 県、ポンプ燃料切れを陳謝



約100人の住民が詰め掛けた寒川地区住民説明会
=20日午前10時30分、小山市中里

小山・寒川地区で説明会

台風19号の影響で浸水被害が発生した小山市寒川地区で20日、小山市と県栃木土木事務所が住民説明会を開き、台風被害への対応と地区内を流れる杣井木川の今後の排水強化対策について説明した。住民ら約100人が出席し、杣井木川排水機場で仮設排水ポンプの一部が燃料切れとなった問題に批判が相次いだほか、

台風19号の影響で浸水被害が発生した小山市寒川地区で20日、小山市と県栃木土木事務所が住民説明会を開き、台風被害への対応と地区内を流れる杣井木川の今後の排水強化対策について説明した。住民ら約100人が出席し、杣井木川排水機場で仮設排水ポンプの一部が燃料切れとなった問題に批判が相次いだほか、

015年9月の関東・東北豪雨でも浸水被害があり、県や市は杣井木川の排水機場の増設や調節池、地区を水没から防ぐ堤防の整備を計画している。

前回は続き今回も被害に遭った住民からは「住居を移転する」という考え方はないか」「大きなため池のようなものを造った方が解決が早いのではないか」などといった意見も寄せられた。県は「治水計画の中で検討していくべき課題」とし、大久保寿夫市長は「長期的には移転も含めて県には検討していただきたい」と述べた。(青木友里)

下野新聞

市町の台風関連情報

【小山】

▽総合相談窓口 市役所別館1階。☎0285・22・6600。

▽災害いみ 玄関先に出しておけば25日まで回収する。持ち込む場合は外城の中央清掃センター(可燃物・布団・畳・じゅうたん・カーペット)、下野市下坪山のリサイクルセンター(不燃ごみ・家具・家電類・粗大ごみ)へ。22日は休み。仮置き場の渋井、旧文化の森跡地は22日も受け入れ。タイヤ、消火器は除く。☎市環境課0285・22・9276。

▽罹災証明 市役所別館1階で対応。☎市資産税課0285・22・9434。

▽入浴支援 市内の被災者対象に市ふれあい健康センターの入浴施設を無料開放。午前9時半～午後8時半。月曜休み。☎同センター0285・30・3700。

下野新聞

台風19号

県内土砂崩れ78カ所

県道通行止め長期化も

より土砂災害の恐れがあるとして、鹿沼市や足利市の一部地域では避難勧告が出され、現在も継続中だ。一方、土砂崩れや冠水などで通行止めとなった道路

は最大で国道12カ所、県道84カ所、市町道147カ所だったが、現在は県道12カ所、市町道多数となっている。県道は鹿沼市5カ所、佐野市3カ所、日光市2カ

所、宇都宮市、那珂川町各1カ所。県道のうち8カ所は規制解除まで約1週間を予定しているが、残り4カ所は長期を見込んでいます。
(小野裕美子)

台風19号による土砂崩れ、道路通行止め

土砂崩れ	15市町78カ所 (足利市、那須町、那珂川町、栃木市、大田原市など)
道路通行止め	県道12カ所(鹿沼市、佐野市、日光市など)

※県災害対策本部まとめ

県災害対策本部の20日までのまとめによると、台風

19号により発生した県内の土砂崩れは15市町の計78カ所に上っている。いったん水が引いた住宅地や、堤防の復旧工事中の河川流域でも地盤が緩み、土砂流れやがけ崩れなど「二次災害」がさらに起きる危険性があり、警戒が続いている。
(2、3、4、20、25面に関連記事)
同本部によると18日午後

2時現在、土砂崩れは足利市が最も多く14カ所、次いで那須町13カ所、那珂川町9カ所、栃木市、大田原市、茂木町で各8カ所、宇都宮市、佐野市、さくら市各3カ所、矢板市、塩谷町、高根沢町各2カ所、鹿沼市、日光市、真岡市各1カ所。調査は続いており、増える可能性がある。
19日にかけて降った雨に

下野新聞

台風19号の影響で、小山市大行寺地区は2015年の関東・東北豪雨に続き今回も多数の浸水被害が発生した。いずれも思川の支流、豊穂川の水があふれたためだ。前回の豪雨の後、思川から豊

穂川への逆流を防ぐ水門が設置され、今回初めて稼働したが被害を防ぐことができず、住民から不満の声が上がっている。豊穂川は河川改修の途上で、市は対応を急ぐ考えだ。(警木友里)

「水門設置したのに」

小山・大行寺地区、また浸水被害

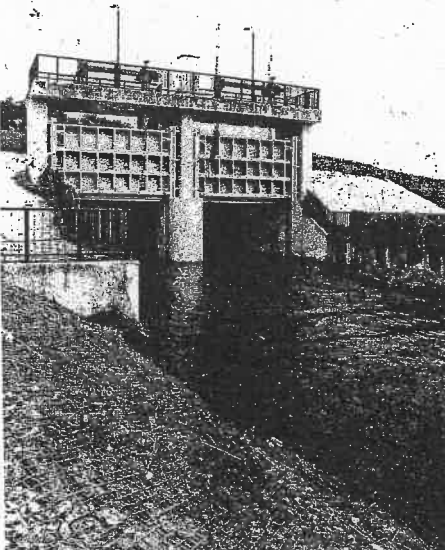
記者
レポート

があふれた。自己責任とか想定外では済まされたいでしょ」と憤りを隠せない。思川と豊穂川に挟まれた同地区は地理的に浸水しやすい地域だった。15年の豪雨では一思川から逆流する水と、上流から流れてくる水で豊穂川があふれた」と市建設水道部は説明する。

住民に不満、河川改修急務

「門ができたから、今回は大丈夫だと思っていたけど、」と。13日午前、大行寺の自宅が床上浸水した無職男性(79)は、水浸しになったカーペットを片付けながら声を落とした。店内の設備が浸水し営業できなくなった居酒屋店主男性(57)は「また豊穂川

このうち思川からの逆流を防ぐための水門が17年3月合流地点に設置された。県や市の職員が目視して両方の川の水位が同じ高さになった時点で開める手順で、12日午後9時20分に開門し、13日午前3時20分に閉門した。その結果、逆流は止められたが、上流から来る水は行き場がなくなった。市は水門付近と上流の農業用水路で計5台の排水ポンプを稼働させたが、うち3台は閉門後に水没。市は「正常



豊穂川に設置された水門

に稼働していたとしても追いつかなかっただろう。現時点でできることは全てやった」と強調する。市によると、大行寺地区の今回の浸水件数は床上148棟、床下114棟(16日現在)。水門がなかった17年は床上689棟、床下226棟。降雨量などが異なるため単純に比較できないが、今回は逆流が防げた分、被害が減少した可能性はある。

豊穂川は7月、思川との合流地点から約1・2キロが1級河川に指定された。市は国の補助金を活用し、今後10年かけて川幅の拡大や堤防整備、雨水ポンプ場や調節池の整備を行う計画だ。同部の古川幸一部長は「さらにスピード感を持って進めていく」として

下野新聞

県内被害487億円超

台風19号

土木300億円、農業150億円に

台風19号による県内の土木施設や農業などの被害額は少なくとも300億円に上ることが21日、県のまとめで分かった。河川や道路などの公共土木施設の被災は1千カ所以上となり、被害額は300億円超に上る見通し。農業被害も、農作物に加えて農地や農業水利施設などで2700カ所以上の被災が確認され、約150億円に増えた。現在も調査中でありに拡大する可能性がある。2015年9月の関東・東北豪雨の総被害額約320億円、11年の東日本大震災の約208億円を既に大きく上回っている。(小野谷孝子、山崎貴徳) 2、3、5、11、21、23、25、26面に関連記事

15年豪雨、大震災上回る

県土木整備部によると、15年の豪雨災害への公共土木施設被害は596カ所、木施設被害は596カ所、205億円だった。今回は県と市町分を合わせると単純計算で1.6倍以上の被害となるため、300億円を超えたとみている。農業被害額は、イチゴ、野菜などの農作物やハウスなどの報告が、若狭町を被るで16日時点は39億8千円だったが、農地と農

台風19号による県内の被害額(21日現在)

農業関連	農地・水利施設など	110億100万円
	農作物	31億2400万円
	小計	149億3400万円
森林関連	林地崩壊	27億2000万円
	林道施設	7億3600万円
	小計	38億5600万円
土木施設関連	小計	300億円超
	合計	487億9200万円超

※県災害対策本部まとめ
※小計は他の被災箇所を含む
※土木施設関連の内訳は不明

台風19号の主な県内被害

※県災害対策本部まとめ(21日午後2時現在)

建物	床下>9344棟<床下>9344棟
	全壊6棟(半壊)3棟
	一部損壊24棟
避難者	避難所7市16カ所、193人(栃本市、佐野市、小山市、鹿沼市など)
市町	15市町110カ所(足利市、栃本市、那須町、那珂川町など)
道路通行止め	県道13カ所、市町道多数
鉄道	西毛線岩舟～栃木駅間終日運転見合わせ
	(終日運転見合わせ) 佐野線佐野～蕨生駅間、日光線新鹿沼～下今市駅間
	一部運休(日光線特急、伊勢崎線特急)
小中学校	鹿沼市粕尾小
高校	栃木商業高、栃木工業高、栃木特別支援学校
私立中高	佐野日大高、佐野日大中等教育学校

災害ごみで対策チーム

県、迅速処理へ市町支援

台風19号で発生した大量の災害ごみに対応するため、県は21日までに、災害対策本部内に「災害廃棄物対策チーム」を設置した。被災地で課題となっている災害ごみの処理について、ごみ処理業者などと連携して市町を支援する。災害ごみの仮置き場は同日現在、栃木や佐野、鹿沼など10市町に25カ所ある。県内全体の量は判明していないが、関東・東北豪雨を超え、除く県内24市町からあった。市町別では那須烏山市が26億6千万円で最多。林地などの被害も38億5000万円から16日時点の10億5000万円からさらに拡大した。県環境森林部の調べでは林地崩壊や林道施設、木材加工流通施設などの被害は584カ所に上っている。21日の県災害対策本部会で、住宅被害は床上浸水90003棟、床下浸水90344棟と報告された。河川は対策が必要な39カ所のうち、25カ所では緊急復旧工事が完了している。県の過去の災害被害額は、那須水害(1998年)が94.5億3千万円、茂木水害(96年)が51.9億円。今回の台風19号による被害額も同様に巨額となる見通し。橋田重一知事は会談後、「(臨時議会などを)調整した上で補正予算で対応していく」と述べた。

下野新聞

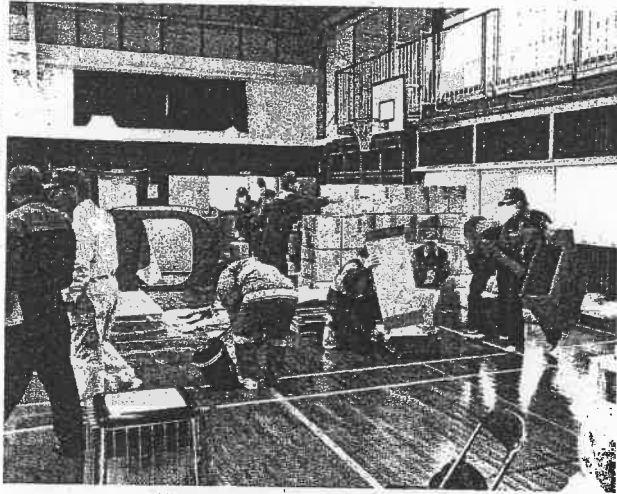
小山

寒川小避難所を閉鎖

3世帯7人中里集会所へ

【小山】台風19号の被災者3世帯14人が避難していた寒川小体育館が22日、授業への影響を考慮し避難所を閉鎖した。このうち3世帯7人は近くの中里集会所に移り、2世帯7人はまだ被災の爪痕が残る自宅に戻った。避難所を移る人も自宅に帰った人も、元の暮らしに戻る見通しは立っていない。(宗像信如)

元の暮らしはまだ遠く



避難所の片付けを手伝う消防団員ら

同校体育館は今回の水害で市内に残った唯一の避難所だった。この日は地元自治会や消防団、市職員らが避難所の引越しを手伝った。白鷗大生で構成する大学生消防団の5人も参加し、朝から体育館の片付けや荷物の搬出に追われた。寒川地区では永野川支流の杣井木川が氾濫し、押切と中里の35棟が浸水被害に遭った。このうち床上浸水は27棟。4年前の関東・東北豪雨では78棟が浸水被害に遭った。押切の自宅が床上浸水した男性(46)は、同校体育館から中里集会所に移った。台風19号が通過した12日は地元消防団員として

戻すから夜通し河川の見回りを続け、13日午後5時ごろに自宅へ戻ると膝下ぐらいまで床上浸水していたという。

4年前の水害で畳や家財道具を全て外に出し、床をフローリングに変えるなどリフォームしたばかりだった。「もう2回目だし。どうしていいか分からない。」

家を建て替える余裕はない」と男性は言う。今の望みを尋ねると「せめて壊れたい」と話していた。

下野新聞

土木被害 1119カ所 366億円

河川が甚大、260億円に

台風19号による公共土木施設の被災は1119カ所に及び、被害額は366億9千万円に上ることが23日、県のまとめで分かった。特に河川被害は県管理を中心に2509億1000万円(773カ所)となった。農業関連の149億8700万円、森林関連の38億5000万円と合わせ、県内全体の被害額は計553億8200万円に達した。1986年の茂木水害(519億円)を上回り、1998年の那須水害(945億円)に次ぐ規模になる見通しだ。

総額553億円 茂木水害超え



の秋山川や栃木市の永野路が15億7900万円(60カ所)、大田原市の蛇尾川など、堤防が決壊するなど、複数の河川で決壊や越水などが発生した。このほか、道

県内全体の被害額のうち、公共土木施設は66%を占める。内訳は県管理が283億9700万円(874カ所)、市町管理が81億9300万円(245カ所)。県管理で最も被害が大きかったのは河川で、土木の被害額の9割を占める254億5000万円となり、被災箇所は725カ所。佐野市

台風19号による県内公共土木施設の被害(23日現在)

河川	箇所数		被害額	
	県	市町	箇所数	被害額
河川	725	48	254億5000万円	4億5100万円
砂防	85	60	9億1800万円	15億7900万円
道路	60	114	12億1700万円	3億6000万円
橋	3	40	3億6000万円	16億1100万円
下水道	1	7	16億5400万円	9000万円
公園	7	29	31億4900万円	1億1100万円
都市災	7	7	1億1100万円	
県合計	874	245	283億9700万円	81億9300万円
市町合計	245	1119	81億9300万円	365億9000万円
合計	1119		365億9000万円	

※概算額のため、今後変更の可能性がある

下野新聞

一方、市町管理では公園が31億4900万円(29カ所)で最も被害額が大きかった。堤防の決壊などで公園内に泥が入り込んだり、芝が剥がれるなどの被害が

多かった。次いで下水道の16億5400万円(7カ所)、橋16億1100万円(40カ所)、道路12億1700万円(114カ所)。県は、応急対応が必要な

箇所は国の災害査定を待たずに応急工事を進め、その他についても国の査定を経て早急に復旧工事を行っていくとしている。同日の県議会常任委員会で県土木整

備部の田城均次長は「災害復旧は原形復旧が原則だが、同じ被害が発生する恐れがある場合は一定の改良復旧を行うことになる」と説明した。

災害対応で 県議会 30日に臨時会議

本県に甚大な被害を出した台風19号を受け県議会は23日、各派代表者会議を開き、30日に臨時会議を開催する方針を決めた。各会派の計5人が福田富一知事に

対し、県の対応などについて質疑を行う見込み。一方、県側は補正予算の提出を来

月11日前後に行えるよう調整を進めている。県議会議事事務局によると、24日の議会運営委員会で、県執行部への臨時会議の申し入れと、知事の出席要請を決定する方針。臨時

会議では4会派が計2時間、県の対応や被災地から上がっている要望などについて知事にたずねる。一方、各派代表者会議で11月上旬に行われたとして予定していた県議5人のオーストラリアへの派遣を台風対応のため延期すること

下野新聞

県内41校 浸水など被害

病院・福祉施設は50カ所

台風19号

県各部署は23日の県議会常任委員会で、台風19号による県内被害や被災自治体への支援状況などを報告した。公私立の小中高校など計41校が浸水や土砂流入などの被害があった。病院、福祉関係施設は一部を除き、再開している。

文化財

浸水や土砂崩れなどの文化財被害は21日時点で、栃木 佐野、足利の3市計20件。他に日光市の日光杉並木で2本の倒木があった。

学校

県教委によると、公立校計38校で浸水や土砂流入などの被害があった。県立学校は7校で、1階が170センチ程度水に漬かった栃木工業高など栃木市内の学校が5校に上った。小中学校は栃木、佐野、鹿沼など9市の計31校で被害が出た。15日以降に休校措置を取った公立校は県立学校8校、小中学校16校に上った。栃木工業高と栃木特別支援学校は23日も休校した。一方、私立校は3高校で

病院・福祉施設

県保健福祉部によると、浸水被害を受けた病院は栃木市、足利市、宇都宮市の3カ所。浸水・停電した栃木市の1カ所は入院患者73人全員を転院、退院させている。福祉関係施設の浸水は計47カ所で20人が避難した。

21日午前10時時点で、浸水した児童施設16カ所のうち

下野新聞

1カ所は休館。残り15カ所は他の施設の代替を含めて再開している。高齢者施設は16カ所中8カ所、障害者施設は15カ所中10カ所が復旧、再開した。

被災市町応援
県民生活部の21日現在のまとめでは、国の被災市

区町村応援職員確保システムに基づき、愛知県、徳島県、横浜市の9人が栃木、佐野、足利の3市に派遣。県内では県から延べ41人、真岡、下野、上三川、益子、野木、塩谷、高根沢の2市5町から栃木、佐野の両市に13人が派遣された。(小野裕美子、石井賢俊)

台風19号の主な県内被害 ※県災害対策本部まとめ(23日午後2時現在)

住宅被害	浸水	〈床上〉9935棟 〈床下〉9432棟
	損壊	〈全壊〉7棟 〈半壊〉3棟 〈一部損壊〉28棟
避難者		避難所6市15カ所、186人(栃木市、佐野市、小山市、鹿沼市など)
土砂崩れ		15市町111カ所(足利市、栃木市、那須町、那珂川町など)
道路通行止め		県道6カ所、市町道多数
鉄道	JR	両毛線岩舟～栃木駅間終日運転見合わせ
	東武	〈終日運転見合わせ〉佐野線佐野～葛生駅間、日光線新鹿沼～下今市駅間
	東武	〈一部運休〉日光線特急、伊勢崎線特急
休校	県立校	栃木工業高、栃木特別支援学校

下野新聞



記者会見に臨む福田知事=24日午後、県庁記者会見室

ハザードマップ 改正必要性示す

福田知事「県全体見直し」

台風19号

台風19号による河川氾濫などで本県に甚大な被害が出たことを受け、福田知事は24日の定例記者会見で、市町が策定するハザードマップの改正が今後必要になるとの考えを示した。小規模河川の氾濫もあったため、簡易型河川監視カメラの増設などを含め、「河川対策を県全体で見直すことになる」と述べた。

2015年の水防法改正に伴い、国や県は豪雨の想定について「100年に1度」から「1千年以上に1度」に引き上げ、浸水想定区域図を作成。各市町はこれを基にハザードマップを策定している。

足利市では尾名川、旗川流域で浸水し、工業団地などが被害を受けたが、国公表の浸水想定区域図を基にした新たなハザードマップの策定が済んでいなかった。

福田知事は「実際の被害を受け大幅な見直しが必要。県としても確認することになる」とした。

県や県内25市町などで行く県減災対策協議会は、主要河川への簡易型河川監視カメラや危機管理型水位計の設置に取り組んでいる。ただ、今回氾濫した小規模河川は「ブーマークの河川だった(知事)とし、「監視装置のない河川などを今後どうするか、市と協議しながら県の役割を果たしていく」と話した。

(小野裕美子)

下野新聞

中里集会所の 住民全員帰宅

市内の全避難所閉鎖
【小山】台風19号で被災し、中里集会所に避難して



いた寒川地区の住民が24日までに全員自宅へ戻り、市内全ての避難所が同日、閉鎖された。大久保寿夫市長は同集会所を訪れ「これから避難所を訪れ、計1804人が避難した。寒川地区では寒川小と公民館に一時142人が避難し、22日に避難所を中里集会所に移した。

半数近くが浸水被害に遭った押切自治会の海老沼幸男会長(66)は「自宅へ帰った人も後片付けや復旧の手続きなどいろいろすることがある。要望があればできる限りのことをしてほしい」と話した。写真。

下野新聞

県内

農業被害167億円に拡大

20市町、県特別条例適用

台風19号による農作物や畜産、農業生産施設の被害額について、県は24日、県内の確定額が計7億6451万円に上ると発表した。全25市町で被害が報告され、21日時点の公表額から約17億8千万円増加した。公表済みの農地や農業水利施設などを加えた農業全体の被害額は少なくとも約167億6500万円となった。

福田富一知事は24日の定例記者会見で、農作物や畜産、農業生産施設の被害について「平成以降で最大」と説明した。また県は同日、県内20市町を対象に県農業災害対策特別措置条例を適用した。被害程度に応じて対象者へ、生産維持に必要な苗や農業の購入費を県と市町が全額補助する。

県農政部によると、農作物被害は43億564万円。内訳はイチゴが最多の21億8102万円、5割を上回る。次いでトマト6億222万3200円、水稲5億3155万円、ニラ1億7694万円。畜産などは約2051万円の被害があった。

ビニールハウスや鉄骨ハウス、倉庫や牛舎などの施設被害額は8802の施設で14億3835万円に上る。市町別では佐野市が14億4763万円、最も多く、次いで栃木市が8億6854万円、いずれも被害額は増加した。一方、足利市は精査の結果、21日時点から約2億6千万円減少し、8億6222万円だった。

一方、県が適用した同条例の対象は佐野、栃木、鹿沼、那須烏山市など、要請があった県内20市町。生産維持に必要なビニールハウスなどの撤去費用のほか、代替え作付け用の苗や肥料、農業などの購入費用が補助される。また施設復旧や農業経営に必要な資金の利子の一部が補助される。

※県災害対策本部まとめ
24日午後2時現在
(山崎真徳)

床上	9936棟	床下	9403棟
全壊	7棟	半壊	3棟
一部損壊	29棟		
避難所	5市14カ所、171人 (栃木市、佐野市、鹿沼市など)		
JR両毛線	岩舟～栃木駅間 終日運転見合わせ		
道路	5カ所、市町道多数		
学校	栃木工業高、栃木特別支援学校		

下野新聞

とうきょう 小山の小河川氾濫

即効性のある対策を示せ

またかと思わせる。思川が増水すると、支流の豊穂川に逆流して氾濫するこ
 を得ない。台風19号の影響で、4年前がそうだった。小規模河川があふれて氾濫した。思川支門が機能し、逆流は防げた。流の豊穂川、永野川、しかし水門を閉めたままでは、支流の仙井木川の合式ポンプで思川への排水を試みたが、そもそも排水能力が低い上に5台中2台は水没して使えなかった。

的に危機が発生すれば、排水ポンプ車は各自治体で奪い合いになる。小山市は自前の排水ポンプ車を導入してはどうか。1台7千万円ほどで、標準的な移動式ポンプの10倍程度の排水能力があるという。すぐ実行できるもう一つの

対策は、豪雨を水田に一時的にためる「田んぼダム」である。既に市の排水強化対策事業に盛り込まれている。豊穂川流域の水田には推計で東京ドーム2・6杯分に相当する330万立方分の雨水を一時的に貯水できるといふ。水田の排水口に小さな穴を開けたふたをして流量を絞るだけの簡単な仕組みだ。同流域では現時点で計画面積の1割強しか進んでいない。排水口を小さくすればごみが詰まり、雨水がたまりすぎれば畦畔が壊れるかもしれない。これらを敬遠する農家もあると

流地点で発生し、400棟を超える住宅や事業所などが浸水被害に遭った。両地区は2015年の関東・東北豪雨でも被災している。仙井木川には県の排水機場がある。それでも排水は追いつかなかった。一部のポンプが燃料切れで使えない時間があつたことは、あり得ない県の不手際だった。

市は国土交通省に豊穂川へ高性能の排水ポンプ車の出動を要請したが、既に出払っていた。今回のように同時多発

市は国土交通省に豊穂川へ高性能の排水ポンプ車の出動を要請したが、既に出払っていた。今回のように同時多発

期間に2度も被災した人々の苦悩と怒りは察してあまりある。小山市と県は即効性のある対策を示すべきだ。

市は国土交通省に豊穂川へ高性能の排水ポンプ車の出動を要請したが、既に出払っていた。今回のように同時多発

市は国土交通省に豊穂川へ高性能の排水ポンプ車の出動を要請したが、既に出払っていた。今回のように同時多発

下野新聞